

2018年5月9日

東京電力ホールディングス株式会社
代表執行役社長 小早川智明 様

原子力民間規制委員会・東京
代表 岩田俊雄
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-6-2
ダイナミックビル5F
FAX 03-3238-0797
E-mail mkiseii.t@gmail.com

福島第一原発事故加害者東京電力への質問書

原子力発電は極めて危険で未熟な技術であることが、東電福島第一原発事故で実証されました。犠牲の大きさは計り知れません。小早川社長は、「原発事故は二度と起こさないと固く誓い、復興、廃炉、賠償をやり遂げる」との決意を語っておられます。しかし、いくら「二度と起こさないと固く誓った」ところで、事故は起こらないとはいえません。二度と事故を起こさない最良の方法は、原発をやることです。原発なしでも電気は足りています。

ところが、貴社は、「重要なベースロード電源」という国の建て前をふりかざし、柏崎刈羽原発の再稼働、日本原子力発電の東海第二原発再稼働のための資金支援、東通原発の建設再開など、なおも原発推進の経営方針です。「原発さえなければ」と命を絶った犠牲者の方々、今も苦しむ原発事故被害者をさらに苦しめるものです。原発推進でかせいで賠償にあてるといふありかたは、果たして被害者を塗炭の苦しみから解放するものでしょうか？ 倫理的観点から、原発推進の経営方針に矛盾はないか、貴社の見解をおきかせください。

また、貴社は「最後の一人まで賠償貫徹」、「迅速かつきめ細やかな賠償の徹底」、「和解仲介案の尊重」という三つの誓いを掲げています。しかし、例えば、浪江町の15,000人が申し立てた裁判外紛争解決手続き(ADR)が、東電の拒否によって打ち切りになりました。これは、三つの誓いに反するのではないですか？ 貴社の見解をおきかせください。

福島第一事故では、3基が原子炉底抜けとなりました。そもそも沸騰水型原発は、制御棒を下から入れるので、原子炉の底はザルのように、制御棒駆動装置の穴があります。地震による配管破損などにより、冷却材喪失事故となると、空焚きで核燃料は崩れ、穴だらけの原子炉の底を突き抜けます。このように、簡単にメルトスルーしてしまう設計の沸騰水型原発は、設計に根本的欠陥があり、動かしてはならないと考えますが、貴社の見解をおきかせください。

以上について、5月25日までにEメールでご回答ください。

以上